

「教育活動評価」で高評価

日本語教育振興協会が行っている第三者評価の一つ、教育活動評価を実施し認定を受けました。

今回の認定有効期間は、2023年4月から2026年3月までです。

評価委員会からの総合所見(一部抜粋)は以下の通り、大変高い評価をいただきました。

今後も教育の質を一層充実させるべく、全校で取り組んでまいります。

1988年の創立以来、「日本語教育を通して、日本の良き理解者育成と、留学生の全人的な成長を図る。」という理念を具現化するため尽力し、コロナ禍においても教育の質と多面的な学生支援を維持・継続していることは高く評価できる。

教育の質に関し、専門学校進学や就職を目指す日本語コース及び大学・大学院進学を目指す進学コースを設け、入学者の留学目的に適した教育を提供している。どちらも全日制カリキュラムを採用し、学業に専念できる環境を創出するほか、コロナ禍においてもオンライン授業を行うことで告示基準の定めを上回る教員数を保ちつつ、きめ細かな指導体制を継続している。また、校訓「天は自ら助くる者を助く」の通り、学生本人の自助努力は指導の前提にあり、特に、進学コースにおいて顕著である。そのため、入学者の募集においては、上記の教育方針に合致する人材かどうか、学校関係者が面接を行い、明確な目的意識とその目的を達成するための計画性、学習意欲等を厳しく審査している。

2023年2月27日現在の在籍者数は、100名(台湾41, 中国(香港)18, インドネシア16, タイ10, マレーシア5, 中国(マカオ)4, 韓国4, その他2)で、定員充足率も6割を超え、順調に回復している。在留に関する問題在籍者はなく、出入国在留管理庁から在籍管理優良校に選定されている。

さらに、特筆できる強みとして、学生支援と情報公開が挙げられる。

学生支援においては、コロナ禍においてもオンラインや対面で様々な大学との交流授業・交流会を展開し、目標の一つ「日本人の考え方を理解し、相手に対する配慮や礼節をわきまえつつ自分の意思を伝えられるコミュニケーション力」の育成に不可欠な日本人との接触機会を提供し続けた(2021年度計7回)。進路指導では、学生の希望進路を定期的に把握し適宜指導を行っているが、進学コースの場合は、よりきめ細かく、教師による面接の個別指導のほか、有名大学・大学院に進学したOBとの座談会も実施している。さらに、大学院受験者には、教師による研究計画書の個別指導に加え、大学院受験者の自主勉強会や「研究計画発表会」(校内・年2回)もサポートしている。新たな授業形態を試行する中であっても、良好な受験結果を残していることは評価できる。

また、情報公開・広報においては、学校ホームページとニュースレターが有効である。ホームページは、簡潔なデザインで、入学希望者や経費支弁者に理解可能な言語(日本語・英語・中国語繁体字・インドネシア語・タイ語・韓国語)により必要な情報を素早く得ることができる。入学に関する情報や入学後の教育内容や学生生活に関する情報のほか、JLPT・EJUの過去5年の受験結果、進学先・就職先も公開され、入学希望者が自身のキャリアプランをイメージしやすい秀逸な構成である。一方、ニュースレターは、卒業生や募集代理人等の関係者に対して年に数回配信されるものである。学校の活動が詳細に記され、関係者が学校のよき理解者、支援者となるよう促す効果が意図されている。

その他、教員に関しても、研修参加に補助を設けたり、相互授業見学が活発に行われたりと、全般的に取組の達成度が高い。前回の評価において課題・改善要望となった教員評価の評価項目・基準・方法もすでに定められ、改善されている。